



主要な農作物の生育情報

平成24年度 第5号

(平成24年8月10日)

福島県農林水産部農業振興課



【水 稲】

7月31日現在の農業総合センターの生育調査では、草丈が平年よりやや短く、茎数は品種及び地域によってばらつきがあり、会津地域でやや少ない傾向が見られます。出穂は、高温の影響から生育が促進され、平年並みからやや早い状況となっています。

表1 水稻の生育状況 (※)

調査場所	品 種	移植期 (月.日)	7月31日調査		出穂状況	
			草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	出穂始期 本年 (平年)	出穂盛期 本年 (平年)
本 部	コシヒカリ	5.16	81.5 (97%)	501 (95%)	(8.08) (8.11)	(8.13)
	ひとめぼれ	5.16	78.1 (99%)	593 (103%)	8.03 (8.03)	8.04 (8.05)
浜 地 域	コシヒカリ	5.10	85.1 (90%)	564 (110%)	(8.10)	(8.12)
	ひとめぼれ	5.10	81.9 (84%)	566 (97%)	8.03 (8.01)	8.04 (8.03)
会津地域	コシヒカリ	5.21	85.1 (93%)	477 (92%)	8.05 (8.07)	(8.10)
	ひとめぼれ	5.21	83.3 (94%)	569 (96%)	8.01 (8.01)	8.03 (8.04)

※ 調査：農業総合センター本部（郡山）、浜地域研究所（相馬）、会津地域研究所（会津坂下）
草丈、茎数の（ ）内の数字は本部と会津地域は平年比較。浜地域は前年比較。

なお、県病虫害防除所による定期調査では、葉いもちの発生は高温の影響から抑制されている状況ですが、斑点米カメムシ類の発生が県内で広く確認され、特に会津地域で平年より多い発生状況となっています。

●農業総合センター作況試験（水稻）の調査結果はこちらも参考にしてください。

http://www4.pref.fukushima.jp/nougyou-centre/sakkyou_index.htm

【大 豆】

農業総合センターの生育調査では、全般的に草丈がやや短い傾向がありますが、主茎節数は平年並み～やや多めとなっており、良好な生育となっています。

開花期は、ばらつきがありますが、標播（6月上旬播種）で平年よりやや遅い～平年並み、晩播（6月下旬播種）では平年並みの状況です。

なお、県病虫害防除所の定期調査では、吸実性カメムシ類の発生が懸念されています。

【野 菜】

1 夏秋きゅうり

1回目の出荷盛期は、7月17日頃で平年並みとなっています。現在、生育は子づる上段から孫づるの中段を収穫中ですが、高温・乾燥の影響で曲がり果、尻細果が多い傾向にあります。病害の発生

は平年より少ない傾向にあります。害虫ではアザミウマ類、ハダニ類の発生が見られます。

2 夏秋トマト

県南地方では、現在6～7段果房を収穫中で生育は平年並みです。病害虫は葉かび病、すすかび病、アザミウマ類、コナジラミ類が散見されます。

南会津地方では、7月16日より選果場が本格稼働しています。現在2段果房を収穫中で、生育は順調です。

3 サヤインゲン

県中地方では、現在5月下旬から6月上旬定植のもので中段から上段付近を収穫中です。高温・乾燥の影響で曲がり果等の不良果の発生が見られます。害虫でアザミウマ類の発生が見られます。

4 夏秋ピーマン

安達地方・田村地方の露地栽培は、生育は平年並みですが高温・乾燥の影響により、尻腐果の発生が見られます。害虫でオオタバコガが散見されます。

5 夏秋ナス

安達地方・田村地方の露地栽培は、生育は平年並みですが高温・乾燥の影響により尻太果等の発生が見られます。害虫でフキノメイガ、テントウムシダマシ類の発生が見られます。

6 アスパラガス

会津地方、南会津地方とも現在生育は順調で、夏秋どりの収穫中です。害虫でアザミウマ類の発生が見られます。

【果 樹】

1 モ モ

農業総合センター果樹研究所（以下、果樹研究所という）における「あかつき」の収穫始めは、8月7日で、平年より5日遅れました。また、県北地方では、7月27日から「あかつき」の出荷が始まりました。

果実肥大（果樹研究所、8月1日現在）を暦日で比較すると、「あかつき」は縦径が平年比102%、側径が平年比96%でほぼ平年並み、「ゆうぞら」は縦径が平年比98%、側径が平年比92%と平年より小さい状況です。果実の生育日数による比較では、「あかつき」は平年並み、「ゆうぞら」は平年より大きい状況です。

2 ナ シ

果実肥大（果樹研究所、8月1日現在）を暦日で比較すると、「幸水」は縦径が平年比103%、横径が平年比102%でほぼ平年並み、「豊水」は縦径が平年比100%、横径が平年比101%と平年並みの状況です。果実の生育日数による比較では、両品種ともに平年より大きい状況です。

3 リンゴ

果実肥大（果樹研究所、8月1日現在）を暦日で比較すると、「つがる」は縦径が平年比104%、横径が平年比101%と平年よりやや大きく、「ふじ」は縦径が平年比102%、横径が平年比101%と平年並みの状況です。また、果実の生育日数による比較では、両品種ともに平年よりやや大きい状況です。

【花 き】

1 キク類

露地栽培の小ギクや輪ギクでは、8月咲き品種が旧盆需要に向けた出荷が最盛期を迎えています。7月下旬の低温により開花はやや遅れ気味ですが、安定した価格で取り引きされています。また9月咲き品種は、前年並みに順調な生育です。害虫では、ハダニ類、ハモグリバエ類の発生が多くなっています。

2 リンドウ

安達地方や会津平坦地域では、早生品種の出荷は7月下旬から始まっており最盛期を迎えています。その他の品種も生育はほぼ順調です。南会津地方では、8月上旬からは早生品種の出荷が順調に行なわれています。

3 シュッコンカスミソウ

高冷地の越冬株栽培での出荷は7月下旬に終了し、代わって新植株の出荷が始まりました。害虫では、ハモグリバエ類やアザミウマ類の発生がやや多くなっています。

4 トルコギキョウ

会津地方や郡山地方の平坦部では、無加温促成栽培の出荷が7月下旬まで続きました。また、8月出荷作型では、順調に需要期出荷を迎えています。害虫では、ハモグリバエ類の発生が例年より多く見られます。

5 シンテッポウユリ

須賀川地方のシンテッポウユリは、2年生株（品種：うつみね）では中生種の出荷が終了となり、晩生種の出荷が始まっています。

【飼料作物】

1 牧 草

2番草は、平坦部では梅雨明け後の7月下旬から、山間部では8月上旬から収穫期となり、収穫作業が行われています。高温と少雨の影響で、収量は平年並みからやや少ない状況となっています（昨年秋に除染（草地更新）を行った牧草地）。なお、これから県内の多くの地域で除染作業が本格的に開始されます。

2 飼料用とうもろこし

天候にも恵まれ、順調に生育しており、収穫期、収量ともに平年並みが予想されます。早生種では8月中旬に収穫期を迎える見込みです。なお、高温の影響で、生育が早まることも予想されますので、生育状況をよく観察し適期（黄熟期）に刈り取りを行ってください。

◎ 病害虫の発生状況や防除情報については、病害虫発生予察情報（ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/fappi/index.html>）等を活用し、適切に対応してください。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL(024)521-7339

http://wwwcms.pref.fukushima.jp/pcp_portal/contents?CONTENTS_ID=11224